

# 1型糖尿病サマーキャンプにおける 摂取量調査報告書(お食事メモリー)の 教育効果の継続について

2019年1月12日火曜日

駒沢女子大学 健康栄養学科

飛田京子 西村一弘

# 一般社団法人 日本病態栄養学会 COI 開示

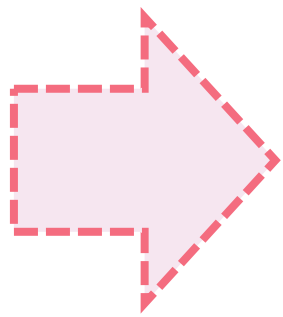
発表者名：西村一弘、◎飛田京子(◎研究代表者)

開示すべきCOIはありません。

# 背景

## 先行研究<sup>1)2)3)</sup>

食事療養はカーボカウント法、フリーダイエット法を行っている患児が多く、管理栄養士の栄養指導を受けているはほとんどいなかった。



**適切な食事摂取量などを  
学ぶ場としてサマーキャンプは  
重要である。**

# 目的

**1型糖尿病サマーキャンプの  
教育効果にお食事メモリーが  
影響を及ぼすか明らかにする。**

## 対象者

つぼみの会1型糖尿病サマーキャンプに参加している  
小学生：9人 中高生：6人

## 研究期間

2018年7月～2018年12月

## 研究デザイン

アンケート調査・  
食事摂取量報告書（お食事メモリー）

## アンケート内容

- ・復習の有無や回数
- ・復習しなかった理由
- ・使用ページ
- ・使用用途
- ・カレンダーの使用について（キャンプ後のみ）

# お食事メモリーの内容

## 去年の内容

- ・ 5 大栄養素の説明
- ・ キャンプ中の食事の糖質量
- ・ キャンプ中の患児が  
摂取した食事の栄養価計算
- ・ バランスの良い食事について

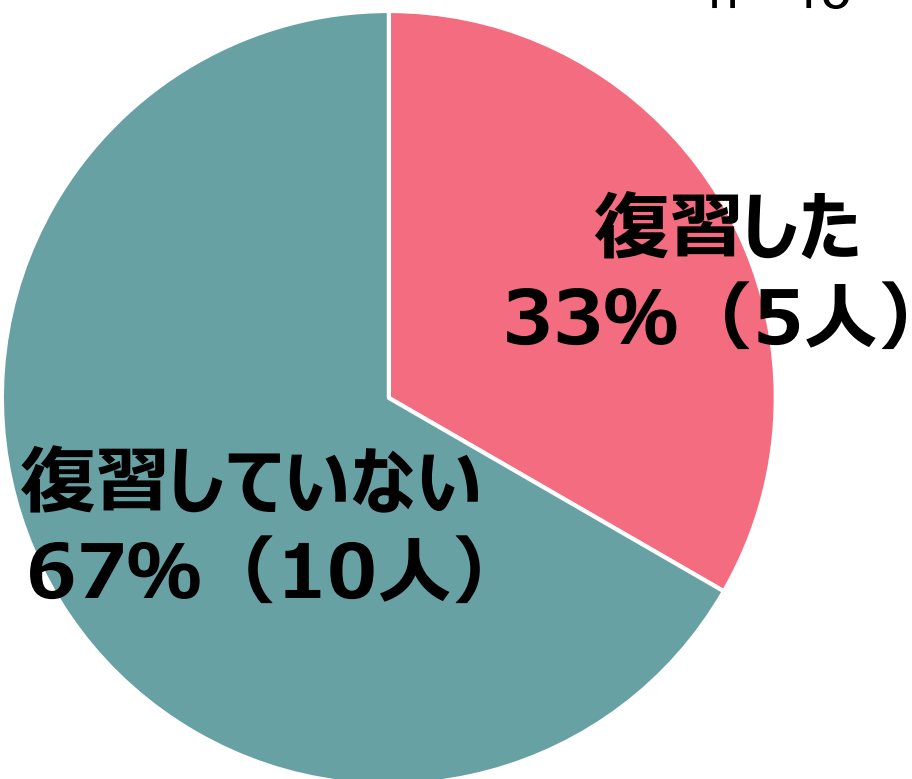
## 今年の内容

- ・ 5 大栄養素の説明
- ・ キャンプ中の食事の糖質量
- ・ キャンプ中の患児が  
摂取した食事の栄養価計算
- ・ 3食食べたかなカレンダー
- ・ 行事食について
- ・ 郷土料理について

# 結果 復習の有無について

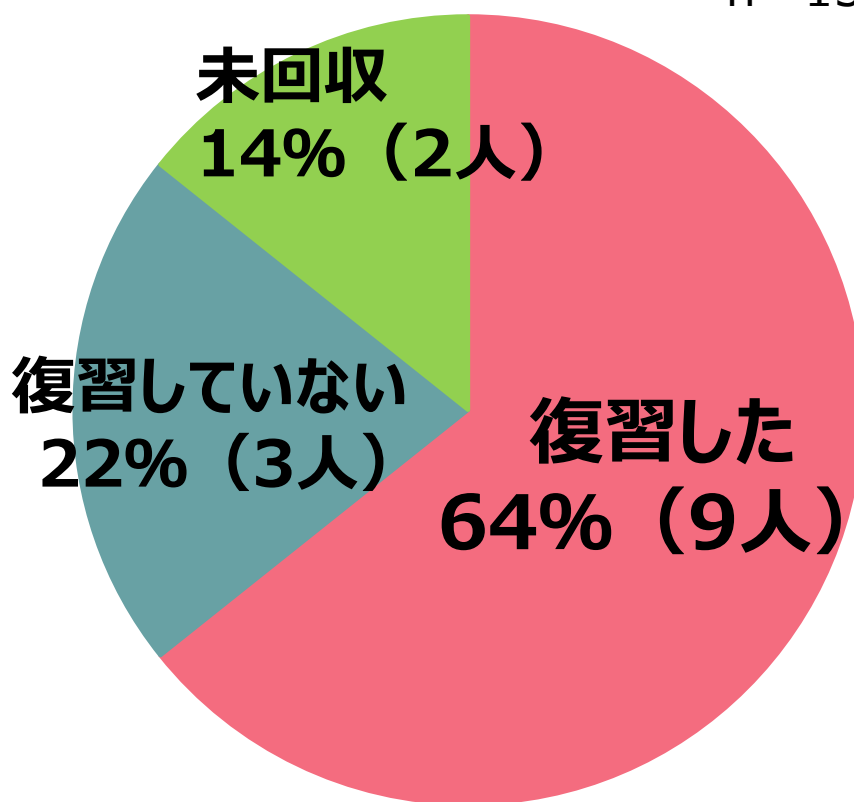
## 復習の有無

n=15



## 復習の有無

n=15

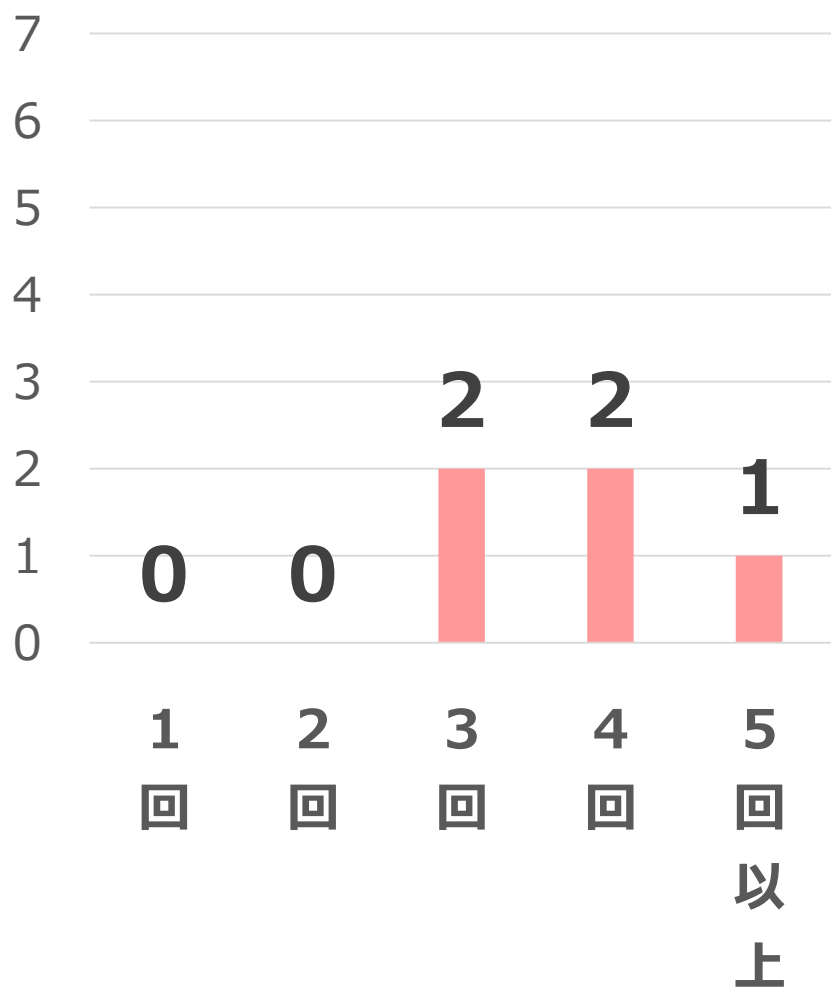


Wilcoxon の符号付き順位検定  $p < 0.05$  有意差あり

# 結果 復習回数

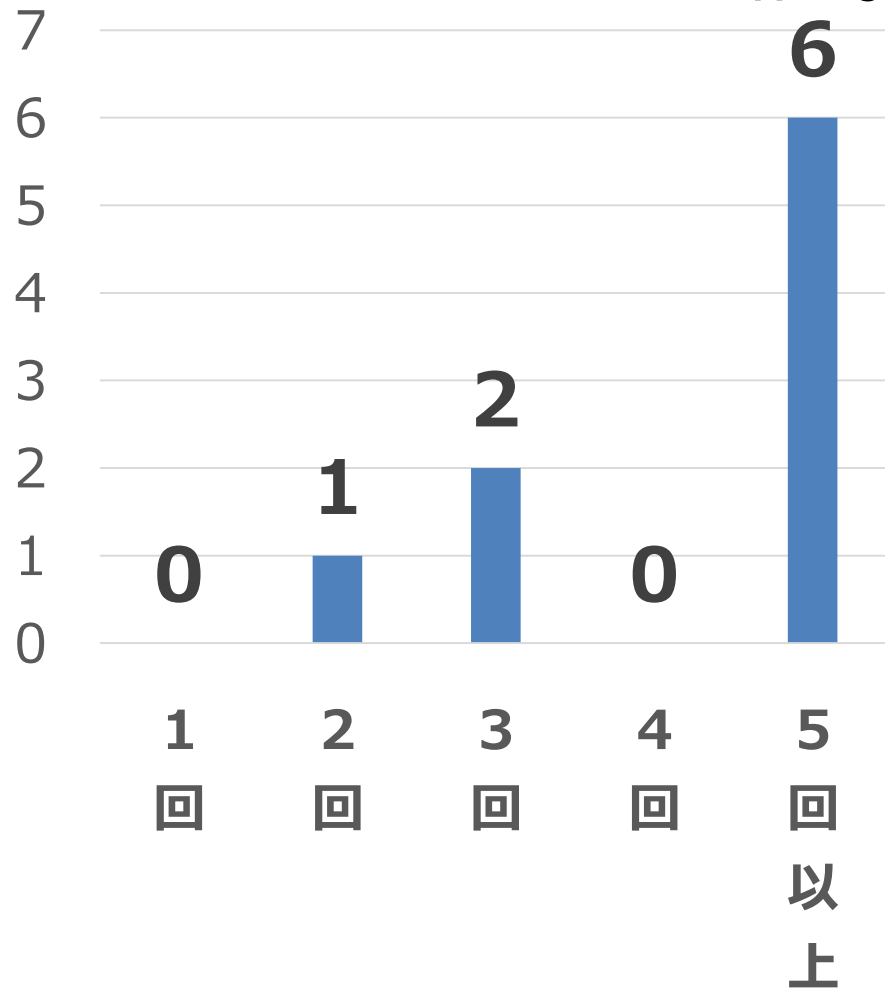
## 復習回数

n=5



## 復習回数

n=9

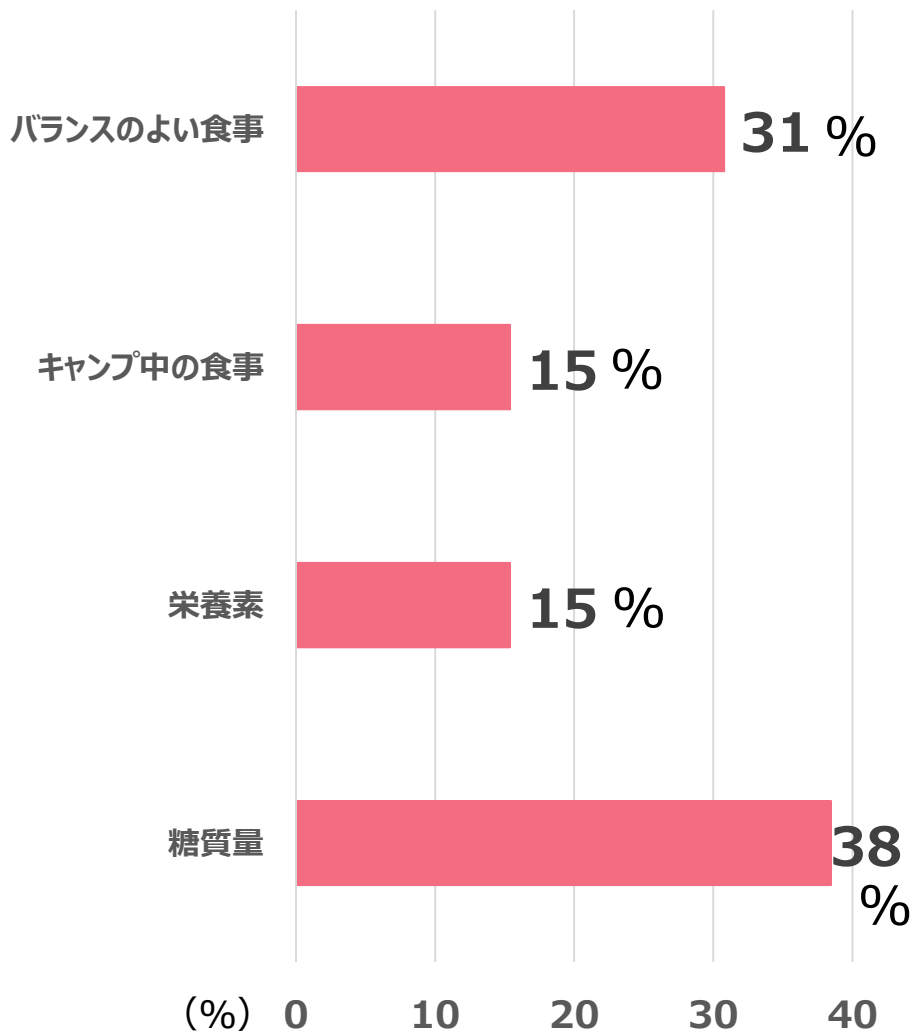




# 結果 復習したページ

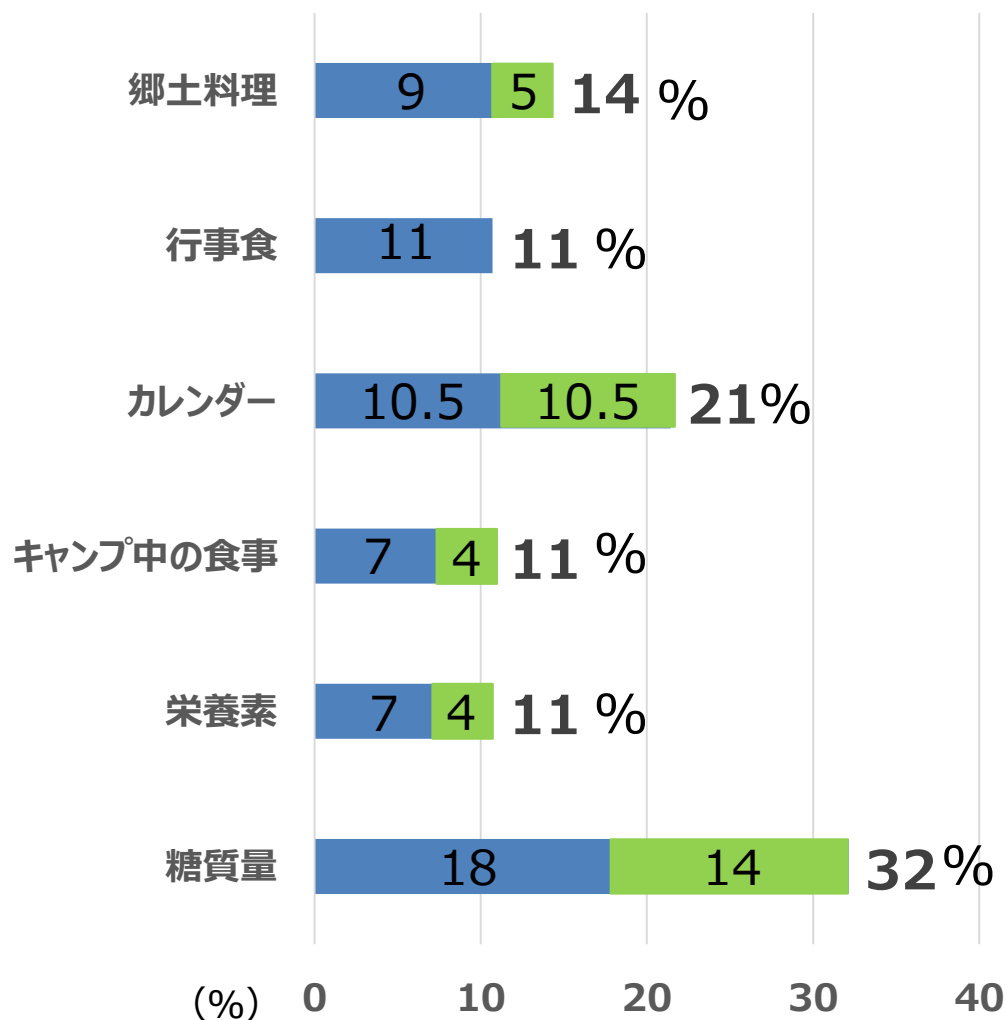
## 復習したページ

総回答数13  
n=5



## 復習したページ

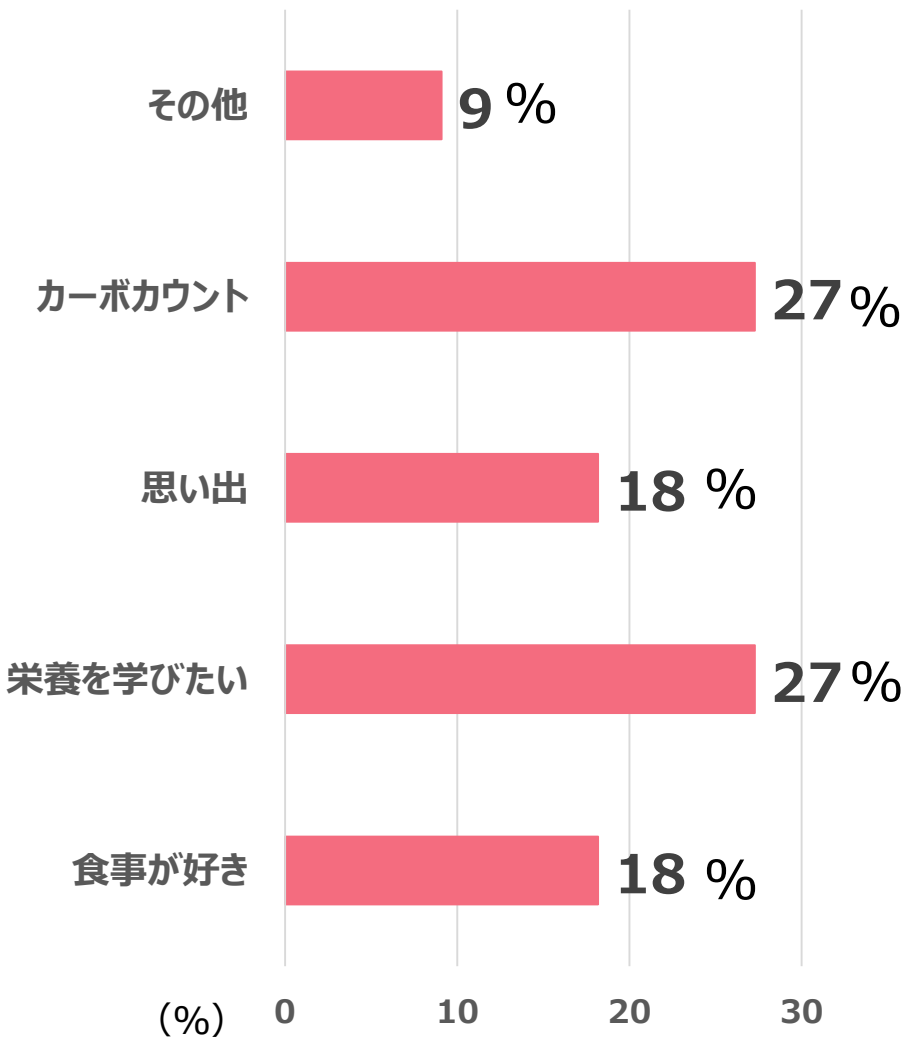
総回答数28  
n=9



# 結果 使用用途

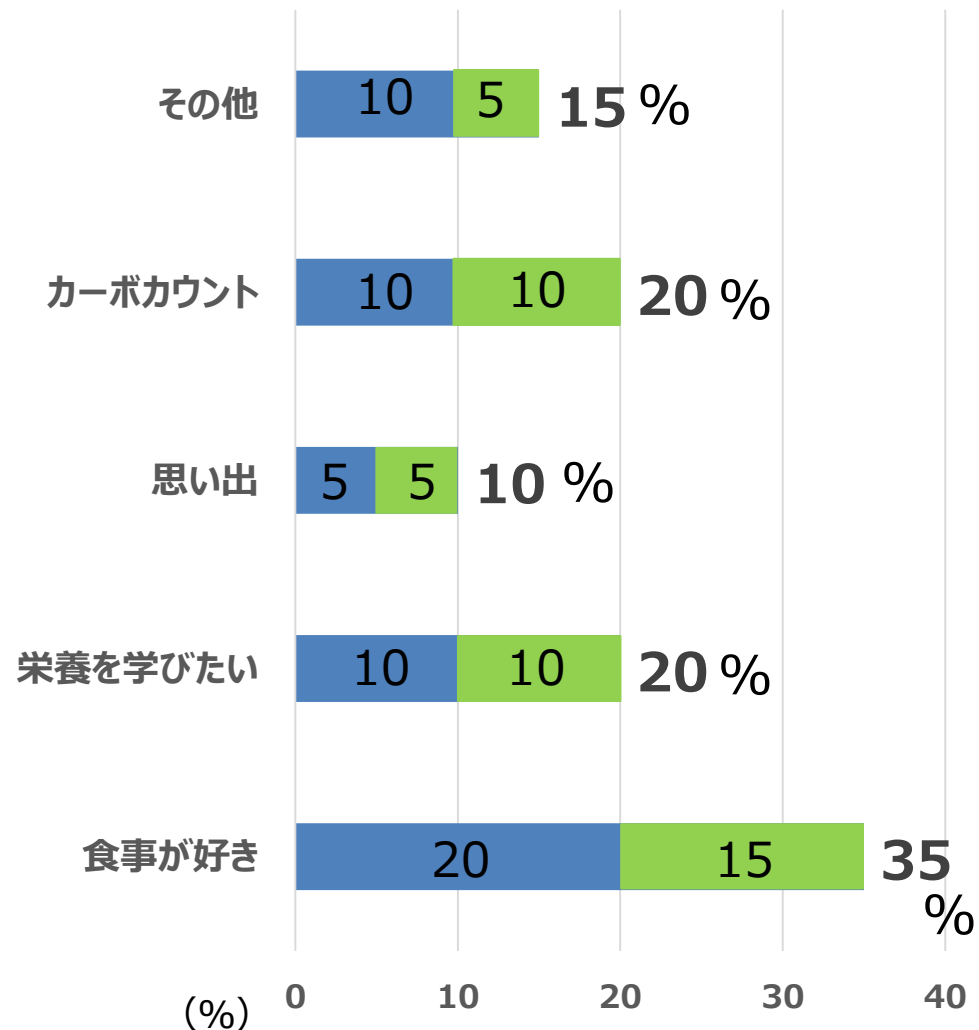
## 使用用途

総回答数11  
n=5



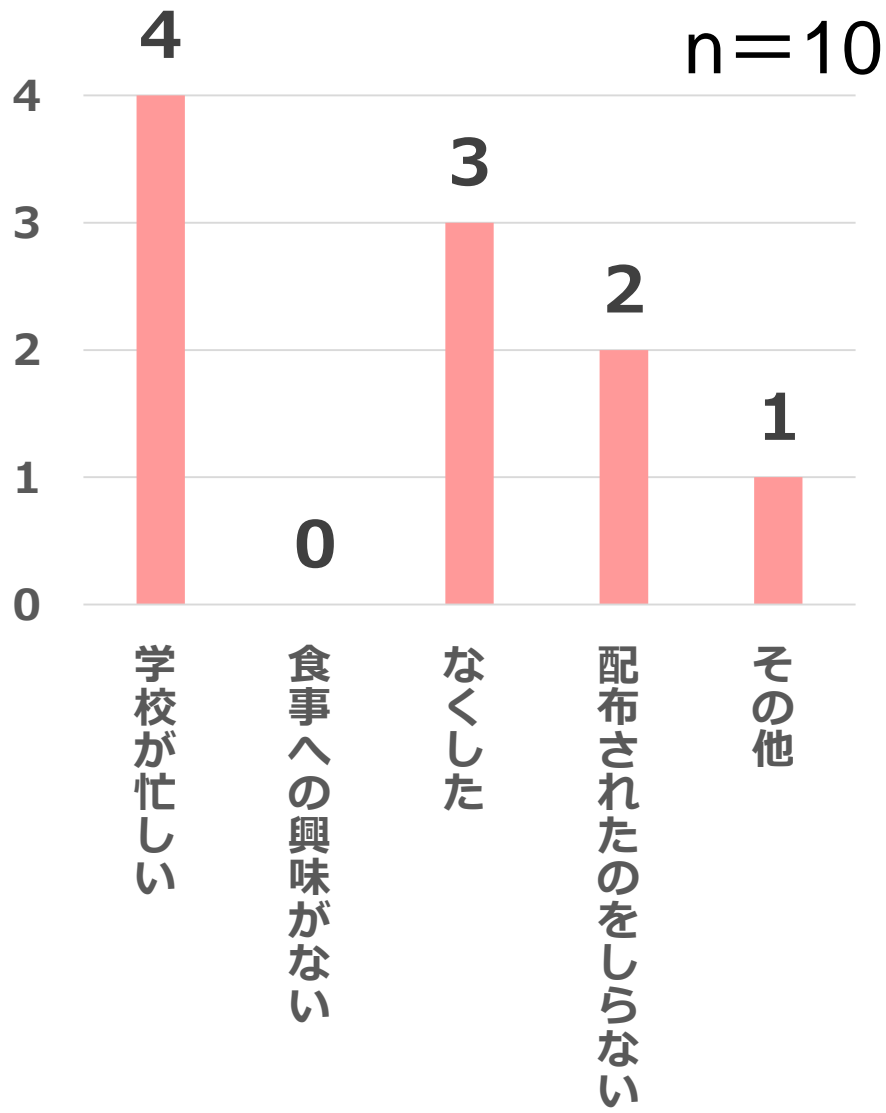
## 使用用途

総回答数20  
n=9

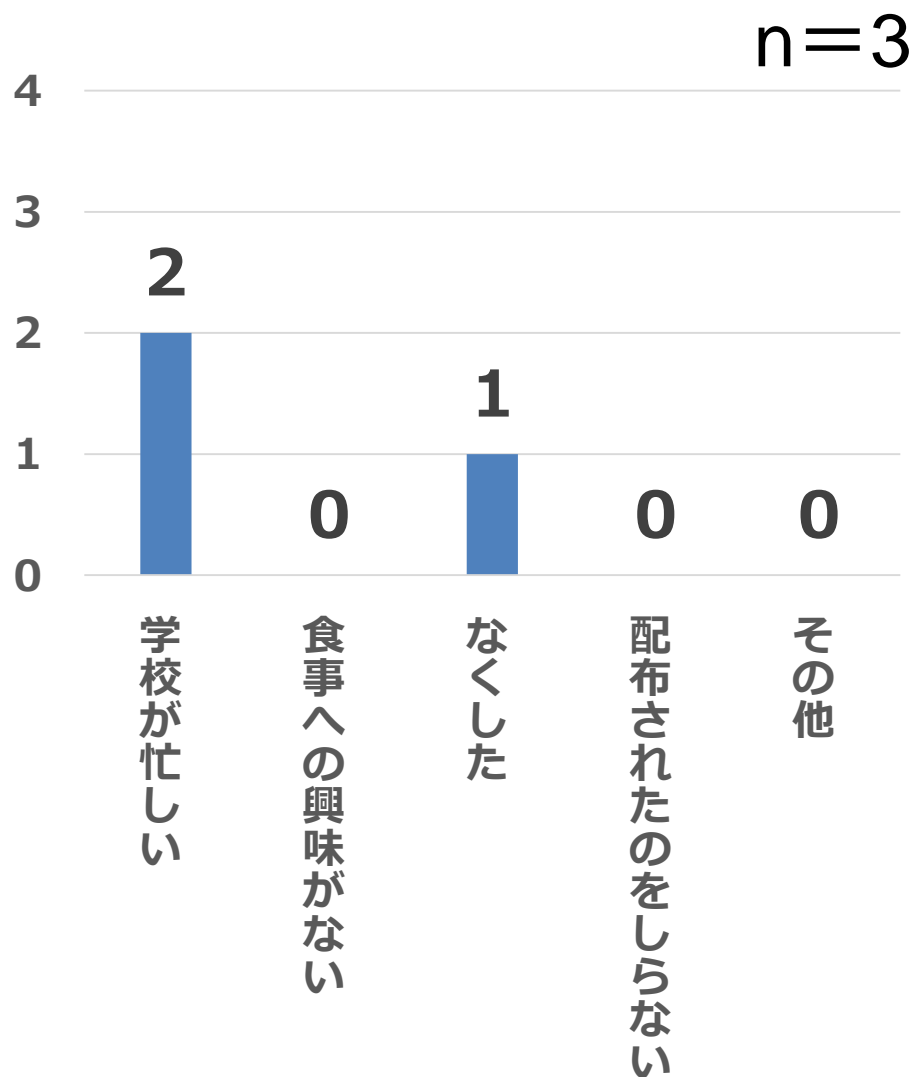


# 結果 復習しなかった理由

## 復習しなかった理由



## 復習しなかった理由



# 考察

・復習したと回答した人数が増えた。

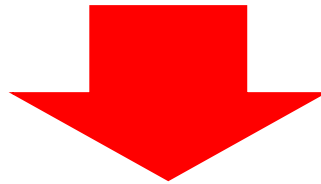
- ① キャンプ後に自宅で行う媒体の作成
- ② お食事メモリーの認知度の上昇
- ③ キャンプ中に行う栄養教育、またその媒体の作成。



サマーキャンプの教育効果に  
影響しているのではないか。

# 考察

復習できなかった患儿に対して  
どのようにアプローチすればよいか。



- ①紙媒体ではなく携帯やパソコンからアクセス可能な媒体の作成。
- ②冊子ではなく家に貼れるようなポスターの配布。
- ③キャンプ中に行う授業での利用。

# 結語

- ・多くの患儿たちが食事や栄養に対する興味がある。
- ・キャンプ後も使用できる媒体の作成をすることによって復習をしてもらいやすくなる。
- ・適切な食事や栄養について学ぶ場としてサマーキャンプは重要であること。
- ・お食事メモリーはサマーキャンプの教育効果に影響を及ぼしている可能性があること。

今回の研究を活かし来年以降のお食事メモリーの作成を行っていききたい。

# 参考文献

- 1) 西村一弘 藤原恵子ら (2009)  
小児1型糖尿病サマーキャンプ栄養摂取情報  
提供書「お食事メモリー」の活用状況について
- 2) 佐々木晶子 酒井治子 朝山光太郎 (2015)  
小児糖尿病サマーキャンプ参加者の食事療養に  
関する調査成績
- 3) 田中秀規 岡村尚子 小沼敏二 浦上達彦 (2010)  
小児糖尿病サマーキャンプ期間中に行った
- 4) 田中律子 木藤宏子 新井田祥子 (2004)  
栄養指導媒体の活用に関する調査研究